2.「実践教育による社会的問題解決能力の養成」について

平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に、本学の取組「実践教育による社会的問題解決能力の養成」ーフィールドワークを活用したプロジェクト型演習の導入ーが選定されました。

この取組では、行政、中小企業、NPOなどのクライアントが抱える問題に対して、ゼミナールを中心にプロジェクトを組織し、クライアントとともに課題の解決にあたります。このプロセスを通して学生が創造性、判断力、行動力、コミュニケーション能力、協調性といった素養を身につけることを目的としています。

平成21年度は、環境・観光・地域活性化・商品開発・CSRをテーマにした5つのゼミがフィールドワークに臨み、平成22年1月23日に大阪商業大学ユニバーシティホール「蒼天」にて成果報告会が行われました。当日は、各プロジェクトの成果発表の後、担当教員や学生、クライアントの方々だけでなく、一般参加の方々との意見交換も活発に行われました。



平成22年度には現行の5つのゼミに加えて、経済教育・高齢者雇用・地方鉄道活性化・地域福祉をテーマにした4つのゼミが新たにプロジェクトに取り組みます。

以下に各プロジェクトの概要をご紹介します。

【演習テーマ1】フィールドワークによる河川環境保全の研究

経済学部　経済学科／原田ゼミナール

原田ゼミでは「フィールドワークによる河川環境保全の研究」をテーマに、淀川水系が抱えるさまざまな環境問題の解決に向けた取組を進めています。

今年度は３つのテーマを設定し、グループごとに課題に取り組んでいます。このうち、「漂着ゴミ問題の解決」の観点からは、世界各地で深刻化している漂着ゴミ問題の解決に向け、基礎となるデータの収集・分析を通じて、問題の所在を社会に広く訴え、問題解決をめざしています。また、「希少生物の保護と生息環境の保全」の観点からは、外来水生植物の駆除にあたって、どのよう

にすれば幅広い市民参加が実現するのか、といった課題に取り組んでいます。また「流域間交流」については、淀川の上下流の交流の活性化にむけて、川の文化に親しみ、学ぶことができる体験型の観光メニューの考案を通じて、環境保全に向けた意識の向上を図ります。



これらの取組は、流域の行政機関やNPO、企業との連携により実施しています。その中で、流域に伝わる川の歴史や文化について単に知識を得るだけではなく、ご協力いただいているみなさまとの交流を通じて、社会のモラルといった倫理観、あるいは社会人としての職業観といったものについても学んで欲しいと願っています。

●テーマ提供クライアント

大阪府環境農林水産総合研究所（水生生物センター）
保津川遊船企業組合/特定非営利活動法人ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク

【演習テーマ2】フィールドワークによる中小企業の起業家精神の研究

総合経営学部　経営学科／粂野ゼミナール

粂野ゼミでは中小企業がもつ製品の市場調査や改善案を、企業経営者の方々とディスカッションしながらまとめることを通じて、「中小企業の起業家精神とは何か」を学んできました。今回は異業種交流会「フィールドコア平野」の方々と段ボールのいすをテーマに、どこで、どのように販売するかを考え、企画を立てました。また商品に対して自分たちなりの改善提案も行い、実際に試作段階にまで至りました。



これらの活動を通じて学生たちは、自分の考えをまとめ、人に説明する、人の話を聞いて理解する、といった行動がとれるようになりました。最も学生たちの成長がみられた点は、これまで何か指示を受けないと動かなかった学生が自ら積極的に活動するようになったということです。この点はまさに本学がめざしている、問題解決能力であり、社会で必要とされる人材になる第一歩であると考えています。

●テーマ提供クライアント

フィールドコア・平野/日本政策金融公庫東大阪支店

【演習テーマ3】マーケティングによる社会的問題解決の実践

総合経営学部　商学科／酒井ゼミナール



酒井ゼミでは、東大阪市の瓢箪山駅周辺商店街の連合組織「スマイル瓢箪山」と東大阪市役所との地域連携による “瓢箪山地域活性化プロジェクト”に取り組んでいます。既に5年を経過し、全国的にみても数少ない地域と大学の連携の成功事例として、広く知られるようになっています。

ゼミナールは、「実践」を強く意識して運営しています。学生たちが社会の“現場”に出向き、“現場”でリアルな経験をして、真剣に悩み、深く考えることを促しています。フィールドは楽しいことばかりではありませんが、学生たちは、商店主さんに叱られたり、自分たちの力不足を感じて自分を見つめ直す機会を得ています。本年度は3年生27名、2年生10名が、地元の縄手北小学校の5年生の職業研究と販売体験をプロデュースしました。教材を作成して小学生に商店経営をレクチャーしたり、小学生の販売体験イベントを企画運営するなど、学生には大きな負荷がかかりますが、厳しい経験を通して目に見えて精神的に強くなっていくのがわかります。ゼミ生は明らかに活動を通して「自信」を獲得します。他人と協力することが生み出す力、頑張ってみることの素晴らしさ、誠実であることの大事さなどに気づくことが、学生の自信につながっているのだと思います。これがフィールドワークの最も大きな成果であるように思います。

●テーマ提供クライアント

スマイル瓢箪山／株式会社ケイアートファクトリー

【演習テーマ4】企業の社会的責任に関するフィールドワーク型実証研究

総合経営学部　公共経営学科／柗永ゼミナール

柗永ゼミでは、ジオリゾーム(株)に1名、プレジャーサポート(株) に2名、大和ハウスＣＳＲ推進室に2名の学生がインターンシップに従事しています。それぞれのゼミ生は、各企業の社長あるいはフィールドワークゼミ担当者と、ほぼマンツーマンで行動を共にしています。少人数であるがゆえに、フリーライド

の余地はなく、社長、フィールドワーク担当者、他学からのフィールドワークゼミ生とのガチンコ勝負が要求されるというのが、柗永ゼミの特色です。



ゼミ生がインターンシップ先で実質的な活動を始めて、およそ4カ月が経ちます。他学生と協働することで、まず、自分にはどの実践能力が不足しているのかを把握し、その不足した能力を補おうと努め、克服し、自分への自信を手に入れつつあるところまで、彼らは来ているように思います。フィールドワーク先での活動報告を依頼すると、自分の経験を矢継ぎ早に語り始め、それがどんなに自分を変える経験であったか、どのようにやって問題を解決してみせたかを目を輝かせながら話し出します。報告の制限時間を過ぎて、こちらが制止しても、「もう少し話させてください。」と言って話を止めようとしません。たった4カ月ではありますが、彼らの顔つきは、まるで別人のようです。

まだプロジェクトとしては、道半ばであり、すべてが順風満帆とは言えないですが、このフィールドワークゼミが、企業が、社会が、学生を社会人へと変えてゆく様に、同年代のころの自分を顧みると、私は驚きを隠せません。

来年度からは、更にフィールドワーク先での後輩ゼミ生の指導という新たな役割が彼らに課せられますが、他者を教えることを介して得られる学びが、彼らを更にどのように変えてゆくのか。今から楽しみです。

●テーマ提供クライアント

特定非営利活動法人 日本教育開発協会(JAE)／大和ハウス工業株式会社CSR推進室／株式会社ジオリゾーム／プレジャーサポート株式会社

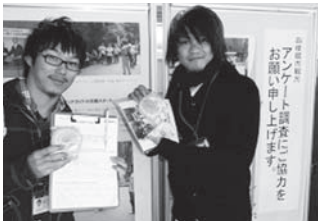
【演習テーマ5】ボランティアを通じた着地型観光の学習

総合経営学部　公共経営学科／横見ゼミナール

横見ゼミナールでは、「フィールドワークを通じた観光地域づくり」というテーマで、主に「着地型観光」の実践的なノウハウを学習しています。「着地型観光」とは、地域が主体となり、地域ならではの視点やアイデアを盛り込みながら、地域の観光資源を開発・発展させることを意味します。こうした取組は、地域活性化の動きと歩調を合わせるように、いまや全国的に拡大しています。

具体的な活動内容を紹介すると、平成21年4月に大阪府の四條畷市と包括連携協定を締結し、なわてロードガイド「ゆずりは」（地域の観光ボランティア

ガイド）と協働して年に5回程度開催される観光ガイド付きハイキングコースを基本とした観光地域づくりを実施しています。



現在、学生たちは「四條畷の観光コンテンツを製作する」という大きなテーマのもとで基礎から観光コンテンツを作り上げていくプロセスを学習し、平成22年春のＪＲハイキングという最大のイベントに向けて準備をしています。夏休みを境に諸活動における学生関与の部分を拡大していった結果、いまではリーダーを長とする的確な役割分担を学生たちで設定し、自ら意見を主張し、時に議論を交わしながら、目的に向かって進んでいます。「創造力」と「協調性」は、とくに今年一年で目を見張る進歩がありました。

平成22年1月には成果報告会があり、これも学生にとって大きなモチベーションになっています。

自分たちの取組を精一杯アピールするために一致団結でがんばっています。

●テーマ提供クライアント

四條畷市／四條畷市市民ボランティア観光ガイド「ゆずりは」

平成22年度からは以下の4つのゼミナールが加わります。

【演習テーマ6】フィールドワークを通して学ぶ経済教育

経済学部　経済学科／柴田ゼミナール

学んだ知識は使うことにより理解が深まると考えます。経済学を学ぶことは、経済理論の仕組みや意味を理解することだけでなく、現実の社会を観察し理解することでもあります。そこで、本ゼミナールではこれまでの学習で得た知識の実践として、社会にある経済現象や問題を、学生が、学生自身よりも若い方々に、調査から得た資料に基づき平易な言葉で説明することを目標とします。現場への取材・資料作成・発表という課程を通じて、経済学・経済社会への理解を深めます。

平成22年度前期は「悪質商法はなぜいけないのか」というテーマのもと、資料収集・レジュメ作成・ディスカッションを行い、具体例を想定した成果物をつくります。それを発表する場を夏期休暇中に設けます。後期は前期の活動から得た反省点をもとに、新たなテーマに取り組み、リーフレットを作成します。

【演習テーマ7】フィールドワークで仕事を探す

経済学部　経済学科／豊山ゼミナール

東大阪市に「東大阪市シルバー人材センター」というところがあり、「まだまだ働きたい」と思っている高齢者に仕事の機会を提供してきました。そうしたセンターも時代の変化とともに課題をかかえるようになっています。同センターと協力してそれらの課題に取り組むことは、私たちの仕事を探す力、新しいビジネスチャンスを見つけ出す力を育てることにつながります。

平成22年度前期はまず、シルバー人材センターについて理解し、ヒアリングの方法やマナーを学びます。さらにフィールドワークにもとづいてセンターの課題を明らかにします。後期は、みんなで考えた解決策を東大阪市シルバー人材センターに提案し、話し合いのなかで内容をよりよいものにしていきます。最後に、出来上がった解決策を実行に移し、評価してもらいます。

●テーマ提供クライアント

社団法人 東大阪市シルバー人材センター

【演習テーマ8】フィールドワークによる地方鉄道活性化の研究

経済学部　経済学科／水谷ゼミナール

皆さんの多くは、ほぼ毎日鉄道を利用し、鉄道に対する意見を自分なりにもっていることでしょう。また少子化による通学客の減少、景気停滞による通勤客の減少、さらには自家用車利用増大の影響を受け、鉄道の利用者は減少し、一部の地方鉄道路線は廃線に至っています。しかしなが自家用車の利用が難しい学生や高齢者にとって、鉄道をはじめとする公共交通は、無くてはならない移動手段で、その維持のために活性化が求められています。本ゼミナールでは、身近な存在である鉄道の魅力向上策、活性化策について研究していきます。

平成22年度の本ゼミナールの特徴は、鉄道会社（水間鉄道）と一緒に鉄道活性化策をフィールドワークとして実践することです。そのために、交通利用の現状・問題点に関する基本的な知識を文献から学ぶとともに、実際に鉄道会社・鉄道利用者への調査を行って活性化案を練ります。そしてその活性化案を鉄道会社と一緒に実施していきます。

●テーマ提供クライアント

水間鉄道株式会社

【演習テーマ9】フィールドワークを通じて地域福祉を考える

総合経営学部　公共経営学科／宍戸ゼミナール

これからの日本社会は、中高年者がどのように社会にかかわり、活躍できるかにかかっています。本ゼミナールでは、ボランティアやNPOなど地域社会における中高年齢者の社会的役割に注目し、少子高齢化社会と地域福祉をテーマに勉強します。教室でテキストを読むことに加え、東大阪市をフィールドとして、現場に足を運んで現状をリサーチし、問題解決を図る実践的なゼミナール運営を目指します。

平成22年度前期は少子高齢化社会と地域福祉、および、コミュニティ・ビジネスやボランティアについて自由活発に議論します。パワーポイントなどのプレゼンテーションスキルも身につけていきます。後期は、東大阪の地域福祉の事例研究のため、東大阪市のボランティア団体やNPOの団体・組織と密接に関わりながら現状をリサーチしていきます。

●テーマ提供クライアント

社会福祉法人 東大阪市社会福祉協議会